

## 第2章

## 運用編

愛媛県での特別な教育的ニーズのある児童等への切れ目ない支援体制の整備・充実を図るため、教育的支援の中心的ツールとなる個別の教育支援計画や個別の指導計画に関して、必要な情報が集約され、より効率的な作成かつ効果的な活用ができるよう、『えひめ特別支援パッケージ』を開発しました。

本パッケージの活用を通して、担当者間の情報共有を円滑にし、障がいのある子ども一人一人のニーズを把握しながら、長期的な視点による一貫した支援を行っていきます。



## 第1節 「えひめ特別支援パッケージ」解説

### 1 パッケージの特徴

このパッケージは、児童等の実態把握から必要な情報の整理、適切な支援プランの設定、そして計画に基づく指導実践と評価・改善までを一連のものとして捉え、これらを一つのパッケージとして構成した支援ツールです。

このパッケージの最大の目的は、「切れ目ない支援」という観点から児童等一人一人に応じた必要な支援や適切な指導を整理し、組織的・継続的に機能させていくことです。そのためには、児童等の実態や本人・保護者の希望等を踏まえ、将来に向けた目標を設定し、具体的にどのような指導・支援をしていくのか、その結果どのような力が身に付いたのか、明記していくことが必要です。そこで、以下の項目を設定した構成としています。

- ① 客観的な実態把握
- ② 基本情報の収集と整理
- ③ 本人・保護者の思いに基づいた将来像の設定
- ④ 支援者、関係機関との連携
- ⑤ 合理的配慮の提供
- ⑥ 身に付けたい力の明確化
- ⑦ 指導の記録と評価
- ⑧ 支援をつなぐための本人・保護者との合意形成

また、長期的な視点で幼児期から学校卒業までを通じて、一貫した的確な指導・支援を行っていくため、学校や障がい種によらず作成・活用できるよう、チェックシート（各学校種に対応）以外は、同一様式としています。

### 2 パッケージの構成

このパッケージは、6つのシート（確認シート、チェックシート、個別の教育支援計画シート3種、個別の指導計画シート）で構成しています。原則として、本人や保護者が参画しながら作成していきます。

#### ① 学校と保護者（本人）との確認シート

学校と本人・保護者が協力してパッケージを活用していくという観点から、作成した内容や関係機関との情報共有、進級・転出・卒業時の引継ぎに関して、本人・保護者との合意形成を図っていきます。保護者同意となれば押印を得ます。このシートは、合意形成を確立するためのものであり、他のシート（個別の教育支援計画等）とともに引き継ぐこととします。

なお、関係機関との情報共有や引継ぎに関して、保護者の了解が得られない場合は、公的な場所で活用したり、引継ぎ資料として提供したりすることはできません。

## ② 実態把握2次チェックシート

1次チェック（別表）による気になる児童等（学習面、運動・動作、生活面、行動面、対人関係の各項目のうち、一つでも該当する者）に対して、よりの確に実態把握をするため、2次チェックを行います。

このシートは、「できない」ことをチェックするものではなく、「何がどこまでできるのか、これまでどのような学びを積み重ねてきたのか」などを確認しながら、目標設定や具体的な指導・支援へとつなげるためのものです。さらに、各チェック項目については、構造的なものになるよう各学校の段階に合わせて系統性を持たせています。

また、このシートは、保護者に「個別の教育支援計画等」の作成に関して説明する際の根拠資料として、本人が自己理解を深めるためのセルフチェックとしての活用も考えられます。

## ③ 個別の教育支援計画 基本情報シート

基本情報シートには、本人や家族に関する情報、これまでの生育歴や経歴、手帳の取得、諸検査の記録等のプロフィールをまとめていきます。学年の進行とともに新たな情報があれば、追記、修正をして更新するようにしてください。

なお、診断はあるものの本人に告知をしていない場合など、記入に当たっては、児童等の心情に十分配慮してください。

## ④ 個別の教育支援計画 フェイスシート

フェイスシートは、対象児童等の実態をまとめたシートとなります。本人・保護者からの聞き取りや学級担任としての気付きを記入するほか、チェックシートによる入力結果が自動的にレーダーチャートとして反映され、本人の状態を可視化できるようにしています。基本情報シートとともに、長期支援目標や個別の指導計画を作成する際に活用します。

## ⑤ 個別の教育支援計画 支援シート

支援シートには、本人・保護者の願い、長期支援目標、合理的配慮、支援者・関係機関との連携等を記載することで、今後の指導・支援の方向性を示していきます。このシートでは、次のことに留意して様式を作成していきます。

### ● 本人・保護者の参画

支援の中心に児童等を据え、その保護者を重要な支援者と位置付けていることから目標の設定や合理的配慮の提供等に関しては、本人・保護者の意見を十分踏まえること。

### ● 関係機関の横の連携

支援に関して、児童等に関わる各機関がそれぞれどのような役割を果たすのか明示すること。

### ● 関係機関の縦の連携

将来に向けて、「今、どのような支援を行う必要があるか」が分かるものであること。幼児期から学校卒業まで、共通して使えるフォーマットになっていること。なお、本シートは、毎年更新・作成することを原則とします。

### ⑥ 個別の指導計画シート

「個別の教育支援計画」の長期支援目標や合理的配慮、教育課程等を踏まえて作成するようになります。このシートは、各学校の段階や当該学級の教育課程、個々の状況等に応じて、様式を調整できるよう、基本的なレイアウトにしています（必要に応じて加工可）。作成後は、定期的に目標や手立ての妥当性や、児童等の成長について評価を行い、適宜、指導方法や内容を改善していくようになります。

## 3 作成に当たって

このパッケージの作成に当たっては、保護者と情報を共有しながら書けるところから書き始めます。最初から全てを記入しようとするのではなく、今できる限りの情報の中で実態を把握し、保護者を含め関係者と連携を図りながら進めていくことが大切です。

記入する内容については、本人・保護者の心情に十分配慮してください。そのため、このパッケージでは、障がいの診断や療育手帳等の取得の有無、心理検査等の記録、ケース会議等の記録に関して、当該児童等が目に触れないよう配慮する場合のことも踏まえ、各シートの裏面での表示としています。

また、パッケージの作成に当たり、業務の効率化を図るため、校務用端末又は、統合型校務支援システムを用いて電磁的に作成及び保存、情報共有していくことも可能と考えます。紙媒体でファイリングする場合も含めて、その保管については、情報が流失・紛失しないように万全の注意を払うようにします。各学校においては、個人情報保護に関する条例等に則り、個人情報の管理を徹底する必要があります。

## 4 パッケージ様式及び記入上の留意点

次頁以降にその様式及び記入上の留意点を示します。様式については、愛媛県教育委員会特別支援教育課ホームページより、幼稚園等、小学校、中学校、高等学校別にダウンロードすることができます。

## 学校と保護者(本人)の確認シート

学校・園名	〇〇市立〇〇幼稚園
ふりがな	えひめ はなこ
本人氏名	愛媛
保護者氏名	愛媛 太郎

学校名、本人・保護者名を入力すると、他のシートにも自動入力されます。

学年・組等	計画内容の同意		関係機関との情報共有の同意		本計画による引継ぎの同意	
	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印
	作成した計画については、本人・保護者とともに内容確認をし、同意を得ます。(同意の押印)		本計画による関係機関等との間での情報を共有することについて、同意を得ます。本人保護者から同意を得られない場合は、校内のみでの活用となります。		進級、転学、進学、卒業時には、引き継ぐ内容や資料を確認し、同意を得ます。本人・保護者から同意を得られない場合は、本計画を引き継ぐことはできません。	
	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印
	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印
	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印	令和 年 月 日	印

年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
所属長印	校(園)長は、「個別の教育支援計画等」作成の責任者として、保護者(本人)と計画内容の合意形成を図る前に、その内容については、確認しておく必要があります。その上で、年度末にはすべての記載内容を確認し、押印します。					
担任者印						

## 実態把握2次チェックシート

	クラス	ふりがな	えひめ はなこ		園名	〇〇市立〇〇幼稚園			
		氏名	愛媛 サマ		記入日	令和 年 月 日			
					実施者				

該当箇所をチェックすると、支援計画フェイスシートに、項目ごとの平均値がレーダーチャートとなって反映します。

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
1 聞く	① 口頭での一つの指示を覚えて行動する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	② 集団場面で、話をしている人に注意を向けて話を聞く。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	③ 口頭での二つの指示の内容を理解して行動する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
2 話す	① 正しい発音で話す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	② 場に応じた声の大きさを意識する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	③ 助詞を正しく使って2語文で話す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	④ 経験した出来事を、順を追って話す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	⑤ 同年齢の子どもと会話をする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
3 読む	① 平仮名を読む。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	② 楽しみながら、絵本を読む。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
4 書く	① フリーハンドでまっすぐの線を引く。(縦、横)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	② 簡単な平仮名を書く。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	③ 三角形や四角形の模写をする。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
5 計算する	① 5までの数の概念を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	② 自分の年齢を指や言葉で表す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	③ 多い、少ないが分かる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
6 推論する	① 大きい小さい、長い短いが分かる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	② 「朝」「昼」「夜」を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	③ ○△□を弁別する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	④ 2つの指示を順番に取り組む。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
7 運動	① 簡単なボールのやりとりをする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	② なわとびをする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	③ 片足跳び(ケンケン)をする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	④ かけっこや行進の時に手足のタイミングを合わせて動かす。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	⑤ 食事や制作や話を聞く時に、姿勢を保って椅子に座る。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	⑥ 体操やダンスをする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
8 動作	① はさみを使って紙を切る。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	② 紙を半分に折る。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	③ ひもを結ぶ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4
	④ スプーンで食べ物をすくう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
9 生活スキル	① 衣服の着脱、食事、排せつなど自分で行う。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	② 体調が悪い時には、訴える。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	③ 食事の前や汚れた時に手を洗う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	④ 園内の場所が分かる。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	⑤ お金の大きさが分かる。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	⑥ 園の日課が分かり、流れを理解して次の行動をとる。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
10 注意 集中	① 好きなことに集中して取り組む。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	② 活動を最後までやり遂げる。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	③ 道具や用具などを片付ける。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
11 行動の調整	① 椅子に座って活動する。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	② 自分の意に沿わないことや苦手なことでも行う。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	③ 人の話を聞いてから話す。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	④ 順番を待つ。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	⑤ 指示されると遊びをやめて次の行動に移る。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	⑥ 自分が好きなことや苦手なことが分かる。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
12 対人関係	① ルールを守る。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	② 制止されたことをやめる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	③ 他の子どもと仲良く集団遊びをする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	④ 仲のいい友達がいる。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
13 コミュニケーション	① 挨拶や返事をする。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	② 丁寧な言葉遣いで話す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	0
	③ 質問されたことに答える。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2
	④ 人に話しかける。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	⑤ 相手の気持ちや周りの状況を考えて発言する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	4

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
聞く	話す	読む	書く	計算する	推論する	運動	動作	生活スキル	注意集中	行動調整	対人関係	コミュニケーション
2.7	3.0	2.0	1.3	3.0	3.5	3.8	3.5	1.8	1.0	1.5	2.5	1.8



## 個別の教育支援計画 《基本情報シート》

ふりがな	えひめ はなこ	
氏名	愛媛 花子	
性別	生年月日	



住所 連絡先	〒			保護者氏名
	TEL			愛媛 太郎
家族構成	続柄	氏名	備考	特記事項  特別な支援を受けている兄弟姉妹等、保護者が関係者を知っておいてほしい家族の状況等を記入します。
成育歴	乳幼児期の様子			特記事項  首のすわりやつかまり立ち、始語、指差し、人見知り、排せつの自立等の発達の様子の外、出生後に保護者が気になったことや、医師からの指摘、乳幼児健康診査時での相談内容など、出生時や乳幼児期の様子について、保護者から提供された情報を基に記入します。
	在胎週数・出生体重 ( 週 g )			
	( 歳 か月頃 )			
	( 歳 か月頃 )			
	( 歳 か月頃 )			
	( 歳 か月頃 )			
	( 歳 か月頃 )			
療育・教育歴	段階	学校・機関名		特記事項(学びの場の状況等)  障がい児通所支援事業所、放課後等デイサービス等の利用、特別支援学級や通級による指導を受けた期間や状況等について記入します。
	就学前			
	小学校			
	中学校			
	高等学校			

裏

医療	医師の診断	診断名	診断機関／時期
	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	診断名がある場合は、診断先の医療機関名や診断を受けた時期を記入します。	
	服薬	薬名等	主治医
	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	服薬がある場合は、薬の名前や服薬を始めた時期、服薬の時間帯等を記入します。	
特記事項			
医師の指示による日常生活上の配慮事項や通院の頻度、アレルギーやてんかんの有無、補装具等の装用など、教育活動上必要とされる情報を記入します。			
手帳	所持	種類	最新判定
	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 精神福祉	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B 種 級 級 ( 年 月 )
	本人が所持している療育手帳、身体障害者手帳、精神障害保健福祉手帳の情報を記入します。		
諸検査の記録	検査名	実施機関／実施時期	主な結果・所見
	知能検査や発達検査等の実施機関、実施時期、結果・所見等を簡潔に記入します。		

【作成】 ○○市立○○幼稚園

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	えひめ はなこ
氏名	愛媛 花子

希望・願い	本人	[現在]	
		[将来] ( )年後	本人・保護者の思いや願いを聞き取り、記入します。今できるようになりたいこと(なっしてほしいこと)、卒業までにできるようになりたいこと(なっほしいこと)、希望する進路や将来像についても聞き取ります。
	保護者	[現在]	
		[将来] ( )年後	
家庭・地域生活の状況	生活習慣や睡眠時間など、家庭・地域生活の状況を把握します。		
好きなこと得意なこと<強み>	興味・関心や得意なこと、頑張っていることなど、本人の強み、生活習慣や睡眠時間などの様子については、指導・支援の有効な手掛かりとなります。本人・保護者からの聞き取り、関係機関の情報、教師の観察等により把握します。		
本人の様子	苦手なこと<困難さ>	[学習]	本人が困っていることや苦手なこと、支援が必要な点など、つまずきの様子や背景について、本人・保護者からの聞き取り、関係機関の情報、教員の観察等により、記入します。その際、下の実態把握チェックの結果も踏まえ、学習、身体の動き(運動・動作)、基本的生活習慣(生活スキル)、行動(注意・集中・調整)、対人関係・コミュニケーションの各項目にそって整理します。
		[運動・動作]	
		[生活スキル]	
		[行動]	
		[対人関係]	
実態把握チェックの結果			
希望する支援	学校生活や学習をする上で、本人・保護者が希望する配慮や支援を記入します。		

【作成】 ○○市立○○幼稚園

<記入日>

<記入者>

<記入日>

<記入者>

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	えひめ はなこ		
氏名	愛媛 花子		
学年・組		担任者	

表

将来に向けた長期支援目標	<p>本人・保護者の思いや願いを踏まえ、将来(入学、進級、進学、就職等の移行期を目安に、概ね3年後の姿を想定)に向けて、「今、どのような支援を行う必要があるか」、「何のためにその力を付けたいのか」を検討し、達成可能な目標を設定します。その際、支援者側の視点での目標(支援目標)となるよう、「～できるようにする」等の表記にします。</p>
--------------	--

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的配慮		<p>支援目標の達成に必要な「合理的配慮」について、第1章第1節2の「資料/学校における合理的配慮の観点」に示す3観点(プルダウンから選択)11項目を踏まえ、本人・保護者と学校が合意形成を図りながら決定し、その内容を記入します。また、年度末には、次年度に向けて、継続、見直し、終了の検討を行い、「所見等」欄にその旨記入します。</p>	
支援者・関係機関との連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
		<p>支援する機関名、連絡先(電話番号等)、担当者名を記入します。また、支援目標の達成に向けた家庭・各機関の役割と支援内容を具体的に記入します。</p>	

本人・保護者の評価	<p>年度の終わりに支援目標や内容について、保護者(本人)からも評価してもらいます。</p>
-----------	--

次年度への引継ぎ事項	<p>次年度や進学後において、当初に(支援計画を作成などに)参考となる事項やどのような支援が有効だったのかを記入します。</p>
------------	--

【作成】 ○○市立○○幼稚園

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

裏

期日	参加者	主な協議・助言内容等
<p>当該児童等への教育相談や、ケース会議等の内容を時系列で累積していきます。</p>		
<p>相談・ケース会議等の記録</p>		

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	えひめ はなこ	
		氏名	愛媛 花子	
学校・園名	〇〇市立〇〇幼稚園	学年・組		担任者

将来に向けた長期支援目標	個別の教育支援計画《支援シート》から自動的に反映されます。
--------------	-------------------------------

長期目標（1年間）	長期目標は、概ね1年間で設定します。個別の教育支援計画の支援目標を踏まえながら、本人の教育的ニーズを優先に設定します。本人が主体的に取り組めること、達成可能な内容にすること、複数の目標を一つにまとめず焦点化することに留意します。その際、児童等の視点での目標となるよう、「～する」「～ができる」等の表記にします。
-----------	---

## 【 期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
教科、領域、場面等、教育課程や本人の実態に合わせて項目を立てます。	教科や領域に関して、学期や半期ごとの短期で達成可能な目標を立てます。客観的な評価につながるように「～する」「～ができる」等の表記にします。	短期目標を達成するために、教師が行う指導を記入します。本人の得意な面に視点を当てた内容を考えることも重要です。また、評価時に、有効であった手立てには☆印を付けるようにします。	目標や手立てが適切であったか振り返りながら、客観的に評価します。「評価」欄は、プルダウンリストから記号を選びます。 ◎達成 新たな指導目標を設定する。 ○継続 目標達成の見込みがある。 ●見直し 本人の実態に合っていないため、目標や指導の手立てを見直す。	

〈作成日〉 \_\_\_\_\_

〈評価日〉 \_\_\_\_\_

〈記入者〉 \_\_\_\_\_

<参考>

## 実態把握1次チェックシート

学年組		実施日 令和 年 月 日					
		実施者					
番号	氏名	特に問題なし	学習面で気になる	運動・動作で気になる	生活面で気になる	行動面で気になる	対人関係で気になる
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							

※5項目のうち、一つでも該当すれば2次チェックに進みます。

**2次チェックへ**

---

## 第2節 「えひめ特別支援パッケージ」記入例

---

様々な校種、学びの場におけるパッケージの記入例を示しました。それぞれの学校の実情、対象となる児童等の実態に合わせて参考にしてください。

なお、本章では、パッケージ内の6シートのうち、個別の教育支援計画フェイスシート、同支援シート、個別の指導計画シートを例示しています。

事例1 幼稚園  
年長 幼児A 注意欠陥多動性障害（ADHD）

事例2 小学校 通常の学級 通級による指導  
2年生 児童B 言語障害

事例3 小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級  
5年生 児童C 自閉症

事例4 中学校 通常の学級 通級による指導  
3年生 生徒D 学習障害（LD）

事例5 中学校 知的障がい特別支援学級  
1年生 生徒E 知的障害

事例6 高等学校  
1年生 生徒F 広汎性発達障害



## 事例① 幼稚園

## 年長 幼児 A 注意欠陥多動性障害 (ADHD)

入園時より、興味・関心のある物が目に入ると衝動的に動いてしまい、教師が制止をすると大声で泣き叫ぶことがあった。安全面での配慮が必要であり、支援員が目を見守っている。興味の対象が次々に変わり、一つの活動を最後まですることが難しい。体を動かすことが好きで、公園の遊具やプールでは、何時間でも遊ぶことができる。友達と仲良く遊びたいという気持ちはあるが、友達が使っているおもちゃを取ったり、順番を守らなかつたりしてしまうため、トラブルになることが多い。

### 実態把握

家庭訪問で、保護者に園での様子を伝えるとともに、保護者からA児の生育の様子について話を聞いた。3歳児健診で発達に気になるところがあるとされ、病院を受診した。現在も週1回、発達支援センターで療育指導を受けているとのことであった。

発達検査を受け、視覚的な手掛かりが有効であることが分かった。また、2次チェックや園での様子の観察などにより、具体的なつまづきの状況を把握・整理し、支援の方向性を考える資料とした。

### 個別の教育支援計画の作成

小学校入学に向け、関係者が集まり、本児への具体的な支援について話し合った。本児が苦手なのは、話を最後まで聞くことであり、困っていることは、衝動的に動いてしまうことや、友達とうまく関わらずトラブルになることであった。

そこで、約束を守って行動することや、自分の思いを言葉で適切に表現することを目標として設定した。幼稚園では、約束を守って遊べるように、児童発達支援事業所では、ソーシャルスキルトレーニング (SST) を通して自分の思いが伝えられるように、家庭では、約束を守ることと楽しみな時間がもてるよう支援を行うこととした。

### 個別の指導計画の作成

「人間関係」「言葉」の領域を中心に、順番を守って友達と遊ぶこと、「貸して。」や「ありがとう。」を言えるようになること、最後まで話を聞くこと、気持ちを適切な言葉で伝えることを短期目標として設定した。本人の思いに寄り添いながら、表情カードを活用したり、教師が仲立ちをしたり、見本を示したりするなど、よりよい自分を意識付ける支援を行うこととした。

### 評価

終わりの合図まで待ってから話したり、教師と一緒に順番を教えながら待ったりすることができるようになってきた。自分の思いを適切な言葉で表現できることが増え、友達とのトラブルが減ってきている。しかし、自分の思いを言葉で表現することが難しい時があり、自分の思いを適切な言葉で表現できる方法が身に付くよう、指導を継続していく必要がある。

### 引継ぎ

園内支援委員会で、小学校入学後に、引き続き意思表示や行動を調整する力を高められるよう、通級による指導を受けるとよいのではないかと話し合い、保護者に伝えた。保護者は、11月に市の就学相談を受けている。3月の幼保小連絡会で、保護者の同意を得て、個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に、園での取組状況や有効であった支援等を引き継ぐこととしている。

# 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇

希望・願い	本人	[現在] 友達といっぱい遊びたい。いろいろなところにお出かけしたい。 [将来] (1)年後 サッカークラブに入って、選手になりたい。
	保護者	[現在] 友達とのトラブルが減ってほしい。 集団の中に入って、みんなと仲良く活動してほしい。 [将来] 小学校入学後は、通常の学級でみんなと一緒に学習してほしいが、通級指導教室で(1)年後 個別指導も受けさせたい。
本人の様子	家庭・地域生活の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく気が付き、進んで手伝いをしてくれる。</li> <li>外出時、自分の興味のあるものを見つけると、飛び出してしまう。</li> <li>自宅近くの公園でよく遊ぶ。</li> <li>電車に乗って出かけるのが好き。</li> </ul>
	好きなこと得意なこと(強み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことが好き。特に、遊具遊びと水遊び。</li> <li>自分から友達に声を掛けて、遊ぶことができる。</li> <li>乗り物の絵本や動画を見ることが好き。</li> <li>自動車の車種や電車の車両を覚えることが得意。</li> <li>自分の名前を読んだり書いたりすることができる。</li> <li>興味や関心のあることについては、最後まで集中して活動することができる。</li> </ul>
	苦手なこと(困難さ)	<p>学 習 絵を描いたり、文字を書いたりするのが苦手。</p> <p>運動・動作 姿勢が崩れやすい。手先が不器用。 食物アレルギー(卵)がある。</p> <p>生活スキル 夜、遅くまで起きていることが多いため、朝なかなか起きられない。 決まった時間に寝ることができない。</p> <p>行 動 順番を待つことができない。話を最後まで聞くことができない。 興味のあるものを見付けると、すぐに行動に移してしまう。</p> <p>対人関係 ルールを守って遊ぶことが難しい。 勝ちにこだわり、負けると大泣きする。</p>
	実態把握チェックの結果	
	希望する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを理解して、みんなと行動できるように支援してほしい。</li> <li>友達と上手に関わることができるように、支援してほしい。</li> </ul>

【作成】 〇〇市立〇〇幼稚園

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇
年少／年中／年長・児	担任 〇〇 〇〇

将来に向けた 長期支援目標	・約束を守って、行動することができるようにする。 ・自分の思いを言葉でうまく表現することができるようにする。
------------------	---

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的 配慮	教育内容・方法	約束や手順を絵カード等で視覚的に示す。 成功体験を増やし、周りから認められる機会を増やす。	⇒継続・一部見直し 望ましい行動が増えたが、遊びに熱中してしまうと、守れないことがある。
	支援体制	出口につながるドアや階段を活動場所から外したり、園外での活動の際は、支援員が付いたりして、安全に留意する。	⇒継続 活動前に、危険につながりそうな場所と役割分担等について、支援員と確認する。
	施設・設備	興奮が収まらない場合を想定し、クールダウンのための場所を確保する。	⇒継続 教師と一緒にクールダウンするための場所に移動して、落ち着くことができた。
支援者・ 関係機関との 連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
	保護者	家庭生活における支援	約束を決め、守れたら楽しみな時間をもてることを意識付け、習慣化を図る。 自分が行きたい場所を伝えてから動くことを習慣付ける。
	〇〇児童発達支援事業所 担当〇〇〇〇 Tel 〇〇〇-〇〇〇〇	特性を踏まえた支援方法や環境整備についての助言 個別指導の実施(毎週水曜日)	自分の思いが伝わる友達とのやり取りの仕方について、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を取り入れた指導を行う。
	〇〇小児科 主治医:〇〇〇〇 Tel 〇〇〇-〇〇〇〇	定期受診(2月に1回) 障がいの状況について	発達検査等の検査結果の提供や具体的な支援内容や方法についての助言を行う。

本人・保護者の 評価	友達とのトラブルが、以前より減ってきた。 自分の思いを言葉で伝えることができるようになってきた。 友達と遊んで楽しかったことについて、家で話すようになった。
---------------	--

次年度への 引継ぎ事項	褒められることが増え、情緒が安定してきて、衝動的な行動が減ってきている。 適切な言葉で伝えることができるようになってきたが、自分の思いを言葉で表現することが難しい場合があるため、継続した指導が必要である。 やるべきことが最後までやれるようになってきているので、継続して支援を行い定着を図る。
----------------	---

【作成】 〇〇市立〇〇幼稚園

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	〇〇 〇〇		
		氏名	〇〇 〇〇		
園名	〇〇市立〇〇幼稚園	年少／年中／専長・副	〇〇	担任	〇〇 〇〇

将来に向けた長期支援目標	約束を守って行動することができるようにする。 自分の思いを言葉でうまく表現することができるようにする。
--------------	--

長期目標(1年間)	順番を守って行動することができる。 自分の思いを適切な言葉を使って表現することができる。
-----------	---

## 【5～7月】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
人間関係	物を借りる時に、友達に「貸して」や「ありがとう」を言うことができる。	・使いたいおもちゃや物があった時、誰か使っている友達がいないか、一緒に確かめるようにする。☆ ・教師が言うタイミングを知らせ、見本を示し、一緒に言うように促す。☆ ・「貸して」や「ありがとう」が言えた時には、褒める。	・使いたいおもちゃや物があった時、周りの友達に使ってもよいかを確かめてから使うようになり、トラブルが減少した。 ・自分から進んで「貸して」や「ありがとう」が言えるようになった。	◎
人間関係	・順番を守って遊ぶことができる。	・遊ぶ前に、順番を守って遊ぶよう、絵カードなどを使って確認する。 ・何人待てば順番が回ってくるかについて伝え、教師と一緒に確認しながら待つ。☆ ・順番が守れた時は、褒める。	・最初は少し待ったら順番が来る位置から始めたことで、順番を守ることができたという経験を積み重ね、落ち着いて自分の番を待つことができるようになってきた。 ・順番は守らなければならないと分かっているが、遊びに夢中になると、順番が守れないことがある。	●
言葉	・最後まで教師の話聞くことができる。	・話し始める前に、「終わり」の合図が出たら話してよいことを確認する。 ・名前を呼ぶ等して、注意を向けたのを確認してから、話し始める。☆ ・短く簡潔に話すとともに、絵カード等を活用して、分かりやすく提示する。 ☆ ・最後まで聞けた時は、褒める。	・「終わり」の合図が出るまで、話さず待つことができるようになってきた。 ・刺激が目に入ると、集中できなくなってしまうため、話をする時は、座席位置等の配慮をして、集中できる環境を整える。	○
言葉	・適切な言葉を使って、気持ちを伝えることができる。	・発した言葉が不適切だった場合、教師が本人の気持ちを代弁して周りの友達に伝え、適切な言葉について意識させる。☆ ・適切な言葉が使えた時は褒め、周りの友達や教師に認められる機会を増やす。☆	・教師が、本人の気持ちを代弁することで、どう伝えれば友達と仲良くやり取りができるか気付くことができるようになってきた。 ・周りの友達や教師から認められることで、進んで適切な言葉を使おうとするようになった。	○
・				
・				
・				

〈作成日〉

〈評価日〉

〈記入者〉

## 事例② 小学校

### 通常の学級 通級による指導 2年 児童B 言語障害

入学前から、吃音の症状があったが、学校生活に慣れた後で通級による指導を受けさせたいとの保護者の希望があり、2年生から、通級による指導を開始することとした。

穏やかな性格で、休み時間には、仲の良い友達と本を読んだりイラストを描いたりして過ごしている。言葉が上手く出ないことを気にしており、初めて会った人と話したり、みんなの前で話をしたりすることに苦手意識をもっている。

#### 実態把握

保護者は、言葉話し始めた頃から吃音の症状に気付いていたが、症状が出ないことの方が多かったため、自然に収まると思っていたとのことであった。健診で医療機関の受診をすすめられ、現在も療育を受けている。保護者は、友達から、吃音のことでからかわれたりいじめられたりはしないかと不安を抱いている。学校でも、日によって吃音の症状がよく出る時と出ない時がある。自分から挙手をして発表できることもあるが、話し始めるまでに時間を要する。本人は、言葉が上手く出ないことを気にしており、仲の良い友達以外とのやり取りでは、聞き役になることが多い。

#### 個別の教育支援計画の作成

本人と保護者の希望や願いを聞き取ったり、保護者を通じて医師や言語聴覚士（ST）から提供されたりした情報を基に、校内支援委員会で具体的な支援について協議をした。「自分にとって楽な方法で話すことができるようにする」「積極的に人とコミュニケーションを取ることができるようにする」という長期目標達成のために、担任が配慮することと、通級による指導において対応すること等について検討し、保護者、本人の合意を得た。

#### 個別の指導計画の作成

個別の教育支援計画を基に、関係する教職員により個別の指導計画を作成した。話し言葉の流暢性を改善する指導については、通級による指導で行うこととし、周囲とのコミュニケーション関係をより良いものにするための支援については、在籍学級を中心に支援することとした。話すことへの意欲を高める支援については、通級による指導と在籍学級の両方で行うこととした。それぞれの連携を密にし、目標や手立てを共有しながら、一貫した指導ができるようにした。

#### 評価

学習方法の変更・調整については、本人だけでなく学級の全ての児童を対象としたことで、本人も他の児童の目を気にすることなく自己選択して活動することができた。通級による指導と通常の学級での情報交換を密にし、それぞれの学びをつなぐことにより、自分から進んで発言したり、小集団での発言回数が増えるなど、成果を確認することができた。

#### 引継ぎ

今年度の評価を基に、保護者と相談して、次年度の個別の教育支援計画及び個別の指導計画の案を作成した。本人の意思を尊重しながら、継続して支援を行っていくことを本人・保護者と確認した。

# 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇

希望・願い	本人	[現在] 友達といっぱい話がしたい。 [将来] (2年後) 友達ともっと楽しく勉強したり、遊んだりしたい。
	保護者	[現在] 自信をもって、自分の思いや考えを話せるようになってほしい。 [将来] (2年後) 仲の良い友達を増やし、みんなと仲良く学校生活を送ってほしい。
	家庭・地域生活の状況	・家では母親とたくさんおしゃべりをする。 ・ピアノを習っている。 ・幼稚園から一緒に仲の良い友達と、家で遊ぶことが多い。家の中では、活発におしゃべりしながら遊んでいる。
	好きなこと得意なこと(強み)	・本を読むのが好きで、教室や図書室などでよく本を読んでいる。 ・生き物が好きで、よく生き物のイラストを描いている。 ・仲の良い友達といる時は、自分から話し掛けることもあり、表情も生き生きとしている。
本人の様子	学習	グループでは話せることがあるが、全体の場での発言はほとんどない。全員で音読する時は、小さな声と一緒に音読する。
	運動・動作	
	生活スキル	
	行動	初めて会った人や親しくない人から話しかけられた時に、言葉を返すことができない。
	対人関係	仲の良い友達以外と過ごすときは、聞き役になることが多い。
実態把握チェックの結果		
希望する支援	自分の思ったことや考えを、もっと話せるように支援してほしい。	

【作成】 〇〇市立〇〇小学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇
学年・組	担任

将来に向けた 長期支援目標	自分にとって楽な方法で話すことができるようにする。 積極的に人とコミュニケーションを取ることができるようにする。
------------------	---

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的 配慮	教育内容・方法	発音のしにくさ等を考慮して、希望者による音読、歌のテストの個別実施等、学習方法の変更・調整を行う。	⇒継続 学習方法の変更や調整を、学級の全児童を対象としたことで、Bの安心感が増し、落ち着いて授業に臨むことができた。
	支援体制	校内の教職員や保護者が、よき理解者となるよう理解啓発に努める。	⇒継続・一部見直し 全教職員がよい聞き手となり、学校全体が受容的な雰囲気になってきた。次年度は、保護者への理解啓発に努める。
	支援体制	医療機関等と連携し、指導の充実を図る。	⇒継続 言語聴覚士(ST)の助言を得ながら、楽な方法で話すことができるよう、指導を行うことができた。
支援者・ 関係機関との 連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
	保護者	情緒の安定	自然な会話から、本人の気持ちや思いを受け止める。
	〇〇病院 主治医: 〇〇 〇〇〇 言語聴覚士(ST): 〇〇 〇〇 TEL 〇〇-〇〇〇〇	定期受診(1月に1回) 障がいの状況について 言語療育	検査の結果や療育の成果の提供、具体的な支援内容や方法についての指導・助言を行う。

本人・保護者の 評価	通級指導教室での勉強が、とても楽しかった。 学級の友達と、あまり緊張せず話せるようになってきた。 学校での出来事を、家でよく話すようになった。
---------------	---

次年度への 引継ぎ事項	年度の変わり目に、不安感が増して吃音の症状が強くなることもあるため、関係機関それぞれが、本人の不安な気持ちに寄り添う支援を行う。本人が楽だと感じる話し方を試しながら、自分なりのペースで話せるよう、引き続き流暢性を高めるための指導を行う。
----------------	--

【作成】 〇〇市立〇〇小学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	○○ ○○	
		氏名	○○ ○○	
学校名	○○市立○○小学校	学年・組		担任

将来に向けた長期支援目標	自分にとって楽な方法で話すことができるようにする。 積極的に人とコミュニケーションを取ることができるようにする。
--------------	---

長期目標(1年間)	自分のペースで話すことができる。 自分の状況や気持ちを言葉にして伝えることができる。
-----------	---

## 【1学期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
自立活動 (通級による指導)	教師と一緒に、いろいろな方法で音読をすることができる。	・読む速度を変えたり、好きなアニメのキャラクター等になり切ったりするなどして、音読することを楽しむ経験を積ませる。☆ ・腹式呼吸や発声・発音練習等、楽に話せる方法を試しながら、自分に合った方法を見付ける。	・好きなアニメのキャラクター等になり切ることで、抵抗なく音読練習を行うことができた。 ・息を長く吐いてから話し始めると、楽に話せることが分かり、進んで取り入れて話すことができた。	○
自立活動 (通級による指導)	自分の話したいことを、自分から話すことができる。	・本人の好きな遊びや学習をすることで、話しやすい雰囲気を作る。 ・自分の思いや考えを話すことができるような言葉掛けをする。 ・教師が、本人とのやり取りで感じた楽しい等の気持ちを、積極的に伝える。☆	・最初は短い返答が多かったが、気持ちや考えを問う言葉掛けにより、自分の思いや考えを詳しく話せるようになってきた。 ・教師が、やり取りで感じた気持ちを伝えることで、自信が高まり、会話の時の表情が豊かになってきた。	○
国語 (学級)	自分の思いや考えを話すことができる。 (ペア、小グループ)	・発表や音読については、希望者とするを事前に伝え、心理的な不安を軽減する。☆ ・ペアや小グループなどを活用し、少人数で話し合う場を確保する。☆ ・伝えたいと思う気持ちを受け止め、教師自身がよい聞き手となり、話しやすい雰囲気を作る。	・通級による指導で、事前に音読に取り組んだことにより、自信のある教材の学習では、自分から挙手をして音読をすることができた。 ・ペアや小グループ内での発言回数が増えてきた。	○
⋮				
学級活動 (学級)	話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表することができる。	・発表する時は、自分のペースで話し始めてよいことを事前に伝えておく。 ・全体で話し合う前に、小グループで話し合う場を設け、話すことに対する不安を軽減する。☆ ・話し方ではなく、話しの内容について称揚する。	・話し合いを小グループで行うことにより、意見を述べる回数が増えた。また、自分の意見が友達に受け入れられたり、楽に話すことができたりしたこと自信を付け、挙手してみんなの前で発表することができた。	○

〈作成日〉 \_\_\_\_\_

〈評価日〉 \_\_\_\_\_

〈記入者〉 \_\_\_\_\_



### 事例③ 小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 5年 児童C 自閉症

5年生進級時に、学級担任が替わった。慣れないことや苦手なことをする時に、不安が高まり情緒が不安定になり、取り掛かりに時間を要する。友達と関わりたいという気持ちはあるが、うまく関わるができなかつたり、周りのペースに合わせて行動することができなかつたりするため、集団での活動に苦手意識をもっている。学校行事や校外学習等への参加が本人のストレスとなり、学校行事等の前後に欠席が続くことがある。今年度の集団宿泊学習については、家族と離れて過ごすことやみんなと一緒に活動することに対する不安を、強く抱いている。放課後等デイサービスや発達障がい者支援センター等、各関係機関と継続して連携を図りながら、安心して過ごすことのできる環境づくりや段階を踏んだ集団活動への参加などに取り組みたい。

#### 実態把握

保護者の了解を得て、個別の教育支援計画等を基に、前担任から、手先が器用で制作活動を好むこと、聴覚過敏があり大勢の人がいる環境が苦手であること等の強みと困難さ、見通しをもって活動に取り組むための支援や周りの人との関わりの成功事例等の効果があった支援内容・方法について引継ぎを受けた。また、2次チェックや日常的な観察、保護者から提供されたサポートブック等の情報を参考に、収集した情報を整理し、支援の方向性を考える資料とした。

#### 個別の教育支援計画の作成

4月に、保護者、各関係機関が参加してケース会議を実施した。集団宿泊学習で困らないようにしたいという本人や保護者の願いの実現に向け、これまでの支援を生かしながら、段階を踏んで集団活動や体験活動への参加を増やすこと、また、見通しをもたせてから活動に参加させること、本人の意思を伝える力を高めること等、不安軽減のための手立てを講じることとした。聴覚過敏に対しては、本人の申し出により、イヤーマフを使用して、環境を調整することとした。

#### 個別の指導計画の作成

交流及び共同学習は、本人の得意な図画工作科などを中心として複数の教科（家庭科、外国語科）で、計画的・段階的に行うこととした。交流学級の担任と、本人が安心して参加できる座席位置等環境の配慮について話し合った。さらに、見通しをもち主体的に取り組むことのできる支援の手立てとして、学習の流れを示したり、写真や模型、実物等を活用した視覚支援を行ったりすることとした。日常的な交流を図るために、係活動を生かして、休み時間にも交流学級の児童と関わるようにした。

#### 評価

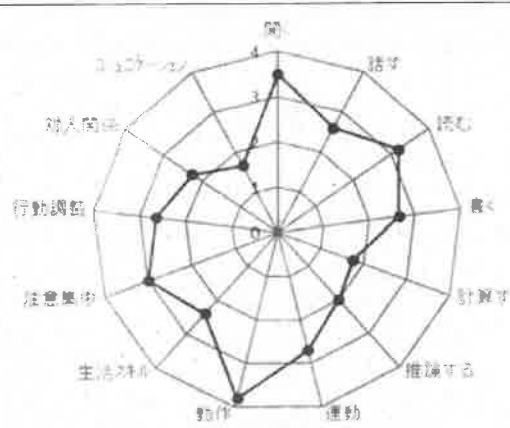
図画工作科では、本人の豊かな発想力を生かした表現が、交流学級の児童から認められたことが自信になり、自分から次の交流予定を確認するようになった。集団宿泊学習では、事前に施設や活動について調べたり体験したりすることによって、日中の活動に全て参加することができた。自分が何をすればよいかという役割が明確な時には、多少不安なことがあっても、活動に参加することができた。関係機関が、同じ目標を共有したことで、一貫した支援を行うことができた。

#### 引継ぎ

今年度の評価を基に、保護者と相談しながら、次年度の個別の教育支援計画及び個別の指導計画の案を作成した。本人の意思を大切にしながら、交流学級との交流及び共同学習の時間を増やしていく。修学旅行では、活動ごとに自分の役割をもたせ、それが果たせるよう、計画的に事前学習等に取り組んでいくことを確認した。

## 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	○ ○ ○ ○
氏名	○ ○ ○ ○

希望・願い	本人	<p>[現在] 交流学級の友達と一緒に勉強したり遊んだりして、もっと仲良くなりたい。困った時にどうしたらよいかを、自分で考えることができるようになりたい。</p> <p>[将来] (2)年後 みんなと同じ中学校に進学して、友達と楽しく中学校生活を送りたい。</p>
	保護者	<p>[現在] みんなと一緒に活動できることを増やし、集団宿泊学習で思い出を作ってほしい。子どもの興味のある内容で学習をすすめ、学力を身に付けてほしい。</p> <p>[将来] (1～2)年後 同学年児童との交流活動を増やしてほしい。 みんなと一緒に修学旅行に行ってほしい。</p>
本人の様子	家庭・地域生活の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で過ごすことが多く、外に出たがらない。</li> <li>・不安が強い時には、夜眠れなくなったり食が細くなったりする。</li> <li>・気持ちが落ち着かない時は、好きな絵を描いたり工作をしたりして気分転換を図る。</li> <li>・兄(2歳違い)と仲が良い。</li> </ul>
	好きなこと 得意なこと 〈強み〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描いたり工作をしたりすること等、制作活動全般が得意である。</li> <li>・英語への関心が高い。</li> <li>・インターネットで検索したり、ユーチューブで動画を見たりするなど、タブレットの操作に慣れている。</li> <li>・勝ち負けへのこだわりがあまりなく、素直に相手を称賛することができる。</li> <li>・予定変更後の見通しをもつことができれば、時間はかかるが、変更を受け入れて活動することができる。</li> </ul>
	苦手なこと 〈困難さ〉	<p>[学習] 漢字の読み書きと算数の計算が苦手。得意な教科と不得意な教科の学力差が激しい。</p> <p>[運動・動作] 全般的に運動が苦手である。特に体操やダンスが不得意である。授業中に、姿勢よく座っていることができない。</p> <p>[生活スキル] 偏食があり、苦手な食べ物がある。聴覚が過敏で、我慢ができない時はイヤーマフを使用している。</p> <p>[行動] 不安が強くなると、小刻みに足を揺らしたり爪を噛んだりする。自分に自信がもてず、自分を否定するような発言をすることがある。</p> <p>[対人関係] 自分の興味のあること等を、一方的に話す。いろいろなことに気を遣いすぎて強いストレスを感じ、腹痛を訴えたり体調を崩して欠席したりすることがある。</p>
	実態把握 チェックの結果	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px; border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">                 2次チェックにより、自動的に入力             </div> </div>
	希望する支援	穏やかに学校生活を送れるように、一日の予定や活動の内容を分かりやすく示してほしい。興味のあることや好きな活動を取り入れて、本人に分かりやすい方法で、学力をつけてほしい。みんなと一緒に活動できるよう、支援してほしい。

【作成】 △△市立△△小学校

〈記入日〉 ○○. ○○. ○○ 〈記入者〉 ○○ ○○○

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇
学年・組	担任

将来に向けた長期支援目標	基礎的・基本的な学力を身に付けることができるようにする。 日常生活のスキルを身に付けることができるようにする。 集団参加が円滑にできるようにする。
--------------	---

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的配慮	教育内容・方法	緊張や不安の緩和につながるように、イヤーマフの使用や周囲の環境等に配慮する。学習活動の順序を、視覚的に分かりやすく示す。	⇒見直し イヤーマフの使用を自分で判断し、担任に申し出ることができるようにする。
	支援体制	本人のよさや困難さ等について、教職員や交流学級の児童への理解啓発に努める。	⇒継続 イヤーマフの使用により、落ち着いて活動する姿から、本人の抱える困難さを理解することができた。
	施設・設備	精神的に不安定になった場合を想定し、クールダウン等の場所を確保する。	⇒継続 教室の一面にクールダウンスペースを設置し、短時間で気持ちを落ち着かせ、活動に戻ることができた。
支援者・関係機関との連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
	保護者	日常生活スキルの向上 家庭生活の支援	集団宿泊学習で必要な日常生活のスキルを向上する。 家族のためにできそうなこと（役割）を本人と一緒に考え、実行できるよう援助する。
	放課後等デイサービス〇〇 担当: 〇〇〇〇 Tel: 〇〇〇〇-〇〇〇〇	小集団での活動の充実	仲の良い友達との関りや本人の得意なことを生かして、小集団で活動する機会を増やす。
	発達障がい者支援センター 担当: 〇〇 〇〇 Tel: 〇〇〇〇-〇〇〇〇	障がいに関する専門的な相談・情報の提供・助言	困った時や苦手なことへの対処の仕方を考え、実践につながる支援をする。
〇〇病院 主治医: 〇〇 〇〇 Tel: 〇〇〇〇-〇〇〇〇	定期受診(3月に1回) 障がいの状況について	診察時の心理状態を言語化させ、自己理解の促進を図る。 発達検査等の検査結果の提供や具体的な支援内容・方法についての助言をする。	

本人・保護者の評価	集団宿泊学習の日中の活動には、全て参加することができた。 困ったことがあった時に、先生に相談することができた。 家庭でも、落ち着いて過ごせることが増えてきた。
-----------	---

次年度への引継ぎ事項	交流学級の中での居場所を確かなものにする。 修学旅行についての事前学習を計画的に行い、不安の軽減を図る。 自分の苦手なことや困ったことを、担任や周りの友達に伝え、援助を受けられるようにする。
------------	---

【作成】    △△市立△△小学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	〇〇 〇〇	
		氏名	〇〇 〇〇	
学校名	△△市立△△小学校	学年・組		担任

将来に向けた長期支援目標	基礎的・基本的な学力を身に付けることができるようにする。 日常生活のスキルを身に付けることができるようにする。 集団参加が円滑にできるようにする。
--------------	---

長期目標(1年間)	特性に応じた指導により、基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。 集団宿泊学習に必要な日常生活のスキルを身に付けることができる。 集団参加の経験を積み重ね、交流できる行事や学習を増やすことができる。
-----------	--

## 【1学期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
国語	読む力の向上を図ることができる。 (テストの漢字部分正答率 50%以上)	・ワークシート等で、振り仮名を付けてほしい漢字に、自分で印を付けさせ、担任が振り仮名を書く。 ・漢字カルタやアプリを活用して、視覚的な強みを生かした漢字学習を行う。	・振り仮名を付けてほしい漢字に自分で印を付けたことで、読める漢字が多いことに気づき、読むことへの抵抗が軽減した。 ・漢字カルタやアプリの活用により、漢字の習得が進み、テストの漢字部分の正答率が 60% になった。	◎
体育	表現運動 友達や教師の動きを見ながら、練習した動きで踊ることができる。	・教師や友達が行っている動きを見て、やってみようという動きを選んで練習する。 ☆ ・練習した一つの動きをつないで踊ると、ひと流れの動きになることを助言する。	・練習した動きを録画し、動きを確かめながら練習できたことで、意欲的に練習することができた。 ・撮りためた動画をつないでひと流れの動きを確かめながら踊ることができた。	○
図画工作 (交流)	主体的に表現する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうことができる。	・新しい単元に入る前に、自学級で、何をどのくらいの時間で制作するのか、取り扱う材料や用具について知らせ、使用に不安を感じている用具については、事前に扱い方を練習できるようにする。 ・集中して制作できる座席位置や道具の配置等、環境を整える。	・制作の見通しがもてたり、用具の扱いを事前に練習したりしたことで、不安が緩和され、交流学級でも落ち着いて制作に取り組むことができた。完成した作品は、交流学級の児童の作品と一緒に展示し、教職員や同学年の児童等、たくさんの人に見てもらうことができた。	○
特別活動	係活動(掲示係) 交流学級のために、季節の掲示物を作ることができる。	・季節ごとの掲示物の見本を用意し、その中から作りたいものを選んで作らせる。☆ ・掲示物は、交流学級にプレゼントし、交流学級の児童に飾ってもらうようにする。☆	・見本があることで、色や形を自分なりに工夫しながら制作することができた。 ・掲示物を交流学級で掲示してもらうことにより、交流学級に行くことを楽しみにするようになった。	○
自立活動	困っている時に、担任等身近な人に相談することができる。	・写真や場面絵を使って、困っている原因が、「何をすべき」が分からないのか、「やり方」が分からないのか考えさせる。 ・困っていることを、原因も含めて、担任に伝える練習をする。	・本人が実際に困ったことのある場面を取り上げ、2つの原因のどちらであったかを考えさせたことにより、困っている状況を、自分なりに理解し、原因も含めて担任に伝えることができるようになってきた。	○
自立活動	苦手な音について知り、不快感が軽減できることに気付くことができる。	・苦手な音について、児童の様子や聞き取りから把握し、本人と確認する。 ☆ ・苦手な音を取り除いたり、小さくできる方法を伝え、不快感を軽減できることに気付かせる。☆	・事前に苦手な音が出ることを予測し、不快感を抑える対応を考え実行することができた。 ・苦手な音を小さくしたり取り除いたりできる方法が分かり、パニックが減ってきた。	○

〈作成日〉

〈評価日〉

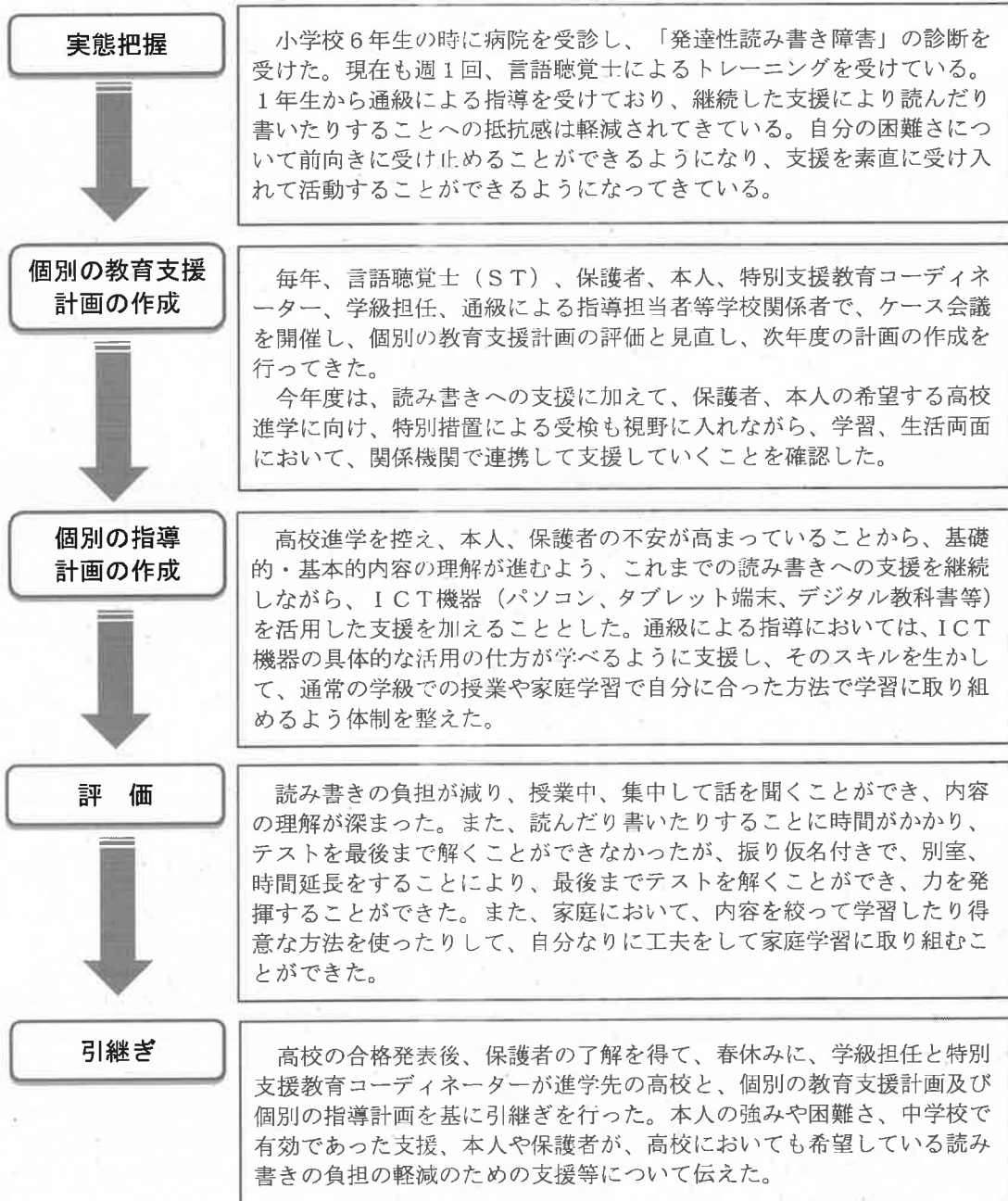
〈記入者〉

## 事例④ 中学校

通常の学級 通級による指導 3年 生徒D 学習障害（LD）

読み書きに困難さがあり、入学時より、振り仮名を付けたり書く量を調整したりするなどの支援を行っている。本人、保護者共に高校進学を希望しており、読み書きの支援に加えて、基礎的・基本的内容の理解につながる支援を望んでいる。また、高校入試においては、特別措置（振り仮名付、別室、時間の延長）による受検を希望している。

毎学期校内支援委員会を開催し、通常の学級と通級による指導における具体的な支援内容や方法について検討、評価を行った。



# 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇

希望・願い	本人	[現在] 希望する高校に進学したい。高校ではサッカーをしたい。	
	本人	[将来] (6)年後 プログラマーなど、パソコンに関係する仕事に就きたい。	
	保護者	[現在] 高校へ進学してほしい。	
	保護者	[将来] (3)年後 高校を卒業して、就職をしてほしい。	
本人の様子	家庭・地域生活の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い友達と集まって、サッカーをしたりゲームをしたりして遊んでいる。</li> <li>・手伝いをよくしてくれる。</li> </ul>	
	好きなこと得意なこと(強み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい性格で、クラスではリーダー的存在である。</li> <li>・運動が得意で、サッカー部に所属し、活躍している。</li> <li>・パソコンの操作が得意である。</li> <li>・写真やイラスト等視覚的に手掛かりがある理科や社会の学習は、好きである。</li> </ul>	
	苦手なこと(困難さ)	[学習]	読み書きができない漢字が多く、音読や板書を写すことに困難さがある。問題文を読むのに時間を要するため、テストを最後まで解けないことがある。
		[運動・動作]	
		[生活スキル]	
		[行動]	
[対人関係]			
実態把握チェックの結果			
希望する支援	授業の内容が理解できるように、支援をしてほしい。		

【作成】 〇〇市立〇〇中学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇
学年・組	担任

将来に向けた 長期支援目標	自ら必要な配慮を依頼できるようにする。 本人に合った学習方法で、基礎的・基本的な学力を身に付けることができるようにする。
------------------	---

	観点	配慮の内容	所見等
合理的配慮	教育内容・方法	ICT 機器を活用して、読み書きの困難さを改善するための指導を行う。	通級による指導で、ICT 機器を活用した学習方法を試し、自分に合った学習方法を習得することができた。
	教育内容・方法	文章の体裁を整えたり、振り仮名を付けたりするなど、特性に応じた情報を提供する。	読みやすい体裁やフォントの使用、振り仮名、問題文の読み上げ等の支援により、学習内容を理解することができた。
	支援体制	通級による指導の有効的な活用や、関係機関からの助言等を生かし、指導の充実を図る。	関係機関等との連携により、テスト時の配慮の体制(振り仮名付き、別室、時間延長)を整えることができた。
支援者・関係機関との連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
	保護者	進学先決定に向けての情報収集及び助言	進学先として考えられる学校の支援体制等についての情報を収集し、本人と話し合う場をもつ。
	〇〇病院 主治医: 〇〇 〇〇〇 言語聴覚士: 〇〇 〇〇 TEL 〇〇〇〇-〇〇〇〇	定期受診(週1回) 障がいの状況について 言語療育	検査の結果や療育の成果の提供、具体的な支援内容や方法について指導・助言を行う。

本人・保護者の評価	自分に合った学習方法について具体的に指導してもらい、家庭での学習時間が伸びた。 高校進学に対する不安を軽減することができた。
-----------	---

次年度への引継ぎ事項	入学前後に進学先の高校と連携を図り、中学校で有効であった支援を高校に引き継ぐなどして、本人が高校生活をスムーズにスタートできるよう支援する。
------------	--

【作成】 〇〇市立〇〇中学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	〇〇 〇〇
		氏名	〇〇 〇〇
学校名	〇〇市立〇〇中学校	学年・組	担任

将来に向けた長期支援目標	自ら必要な配慮を依頼できるようにする。 本人に合った学習方法で、基礎的・基本的な学力を身に付けることができるようにする。
--------------	---

長期目標(1年間)	自分に合った学習方法を工夫し、基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。 テストや受検に際し、必要な支援や援助が分かり、配慮を依頼することができる。
-----------	---

## 【1学期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
自立活動 (通級による指導)	自分に合った学習方法を工夫することができる。	・ICT機器を使った読み書きの支援アプリ等の情報提供し、本人の希望を聞きながら、それぞれの活用の仕方が学べるようにする。☆ デジタル教科書 データ保存ソフト 読み上げソフト デジタルコンテンツ	・板書の画像の大事なところにアンダーラインを引くなどの編集の仕方を習得し、家庭学習でノートに完成させることができるようになったり、デジタルコンテンツを使って予習復習をしたりして、学習内容を理解することができた。	○
自立活動 (通級による指導)	自分のよさや苦手なことなど、自分自身を知ろう。	・本人が話せることに集中できるように、通級担当者がワークシートに記録する。 ・他者(保護者、友達、担任、通級担当者など)からの意見も加え、肯定的に自分を捉えられるようにする。 ・苦手なことに対しては、「苦手だからどう対処するか」まで考えさせるようにする。	・記録を通級担当者が行うことで、本人は話すことや考えることに集中することができた。 ・他者からの意見により、本人が気付かなかつたよさに気付くことができたり、苦手なことに対して対処の方法を考えさせたりしたことで、自分のことを前向きに受け止めることができた。	○
全教科	読み書きの負担を軽減しながら、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。	・必要に応じて、デジタル教科書の使用を認める。 ・穴埋め式のワークシートの使用やICT機器を使った板書の記録等、書く量を調整する。☆ ※板書の記録については、教師が撮影して渡すようにする。☆ ・中間・期末考査では、振り仮名付き、別室、時間延長の配慮をする。	・デジタル教科書を使うことで、読みの負担が軽減されたり、書く量の調整により、話を聞くことに集中できるようになったりして、学習内容を理解することができた。 ・高校受検の際にも、別室で試験を受けることを本人が受け入れられるのか、試験時の配慮について検討していく必要がある。	●
国語	自分の考えを書くことができる。	・作文等の長文を書く時には、パソコン等の機器を活用してもよいこととする。☆ ・自筆にするか、パソコンを使用するかについては、本人の判断に任せる。	・自分の得意なパソコンを使って作文を書くことができるようになり、意欲的に作文等の課題に取り組むようになり、自分の考えを表現できるようになってきている。	
⋮				

〈作成日〉

〈評価日〉

〈記入者〉



## 事例⑤ 中学校

### 知的障がい特別支援学級 1年 生徒E 知的障害

小学校の6年間、知的障がい特別支援学級に入級していた。

人懐っこく、よく気が付き、面倒見がよい。料理や裁縫に興味があり、簡単なものであれば一人で作ることができる。基本的な生活習慣が身に付いていないため、忘れ物が多く、身だしなみを整えることが難しい。簡単な文章は読むことができるが、不明瞭な音がある。また、字形が整わず、書字に時間を要する。相手の話している内容を理解できず誤解したり、自分の意に沿わないことがあったりした時に、すねて動かなくなることがある。係活動等や学校行事など、いろいろなことにやる気を見せるが、最後までやり遂げることは難しい。

#### 実態把握

入学前に、保護者の了解を得て、個別の教育支援計画を基に、小学校の関係者と引継ぎを行った。また、家庭訪問で、本人と保護者から、中学校で希望する支援や家庭での様子等について、聞き取りを行った。さらに、国語と算数の小学校段階の学力定着度を把握するためのテストを実施したり、実態把握の2次チェックを行ったりして、学習や行動面での強みと困難さを把握した。

#### 個別の教育支援計画の作成

校内支援委員会を開催し、本人と保護者の願いや実態把握を基に、支援の内容や教育課程の編成について協議した。本人と保護者に、個別の教育支援計画及び個別の指導計画について説明し、合意を得た。また、ケース会議を開き、スクールカウンセラーの教育相談が実施できるよう校内体制を整えることや、関係機関が生活スキルや対人関係のスキルの向上に向けて取り組むこと等を確認した。

#### 個別の指導計画の作成

各教科や領域ごとに、本人の強みを生かしながら、生活スキルや対人関係スキルの向上、基礎的な学力を身に付けるために必要な目標や指導の手立てを設定した。話すことが好きだが、発音が不明瞭なため、相手に話している内容が伝わらないことが友達とのトラブルの一つの要因となっていたため、発音練習を行うこととした。生活スキルのさらなる向上を図り、一人で準備から片付けができるよう段階的に指導することとした。交流及び共同学習や、同じ特別支援学級間での交流を通して、コミュニケーションスキルの向上を図ることとした。

#### 評価

視覚支援やタブレット端末等の活用により、意欲的に学習に取り組み、学習内容を理解することができた。不明瞭な発音については改善には至っていないが、それ以外の発音については明瞭さが増し、相手に伝わりやすい話し方ができるようになってきた。交流及び共同学習の話合い活動では、自分の考えや意見を発表することができるようになり、自分の考えを伝えることに自信がついてきている。

#### 引継ぎ

今後も、発音練習を続け、相手に伝わりやすい話し方ができるよう支援していく。交流及び共同学習については、交流学級の担任と事前打合せ等、十分に連携しながら、よりよい学習が展開できるようにする。ケース会議以外での関係機関との連絡を取る方法について、連絡簿を作成する等の工夫をしていく。

# 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇

希望・願い	本人	<p>[現在] ・友達と仲良く楽しく過ごしたい。 ・勉強ができるようになりたい。</p> <p>[将来] (3)年後 将来何になりたいか、まだ考えていない。</p>	
	保護者	<p>[現在] ・基礎的な学力を身に付けてほしい。 ・同級生と仲良く学校生活を送ってほしい。</p> <p>[将来] (6)年後 ・就職して、自立した生活を送ってほしい。</p>	
本人の様子	家庭・地域生活の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理や裁縫に興味があり、簡単なものであれば一人で作ることができる。</li> <li>・家事の手伝いを進んですることができる。</li> <li>・自分の気に入らないことがあると、すねて動かなくなる。</li> </ul>	
	好きなこと得意なこと(強み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と関わることを好む。よく気が付き、面倒見がよい。</li> <li>・話好きで、自分の思いやしたことなどについてよく話す。</li> <li>・タブレット端末を使って動画を見たり、アプリで遊んだりすることが好き。</li> <li>・作業を好み、意欲的に係活動等に取り組むことができる。</li> </ul>	
	苦手なこと(困難さ)	[学習]	発音が不明瞭である。書いたり読んだりするのに時間を要する。自分の思いやしたことを積極的に話そうとするがまとまらない。
		[運動・動作]	手作業を好むが、器用ではないため習得に時間がかかる。体を動かすのは好きだが、器械・器具を使った運動は苦手である。
		[生活スキル]	基本的な生活習慣が身に付いておらず、忘れ物が多く、身だしなみを整えることが苦手である。
		[行動]	周りの友達の様子を見ながら行動することができる。注意をされたり、自分の意に沿わないことがあると、すねて固まってしまう。
[対人関係]	友達との関わりの中で、相手の意図をくみ取ることができず、誤解をして、すねることがある。		
実態把握チェックの結果			
希望する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの友達と温かい人間関係が築けるように支援してほしい。</li> <li>・社会生活に必要な読み書きなど、基礎的な学力を付けてほしい。</li> </ul>		

【作成】 △△市立△△中学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇
学年・組	担任者

将来に向けた 長期支援目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なコミュニケーションの取り方を身に付けることができるようにする。</li> <li>・読み書き等基礎的な学力を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
------------------	---

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的配慮	教育内容・方法	視覚的な強みを生かした、分かりやすい指示や教材・教具を提供する。	⇒継続 タブレット端末を使った視覚支援が、特に有効であった。
	支援体制	校内の生徒や教職員の理解促進を図る。	⇒継続 「交流及び共同学習」の目的等について交流学級の生徒や担任に説明し、意義を理解してもらうことができた。
	施設・設備	校内・教室環境の構造化を図る。	⇒継続 特別教室に用途が分かるシンボルマークを貼ったり、校舎全体図を作成したり、教室を活動に合わせて区切ったりした。
支援者・関係機関との連携	支援者・機関名		支援の内容
	保護者	生活スキルの向上 情緒の安定	掃除、洗濯等、できることを増やし生活スキルの向上を図る。 学校生活の様子を聞き、必要に応じて担任に連絡する。
	スクールカウンセラー	月1～2回程度 本人・保護者に対する教育相談	本人や保護者から希望があった時に、教育相談を実施し、悩みを受け止めたりや解決策を一緒に考えたりする。
	発達支援センター 担当: スクールライフアドバイザー 〇〇 〇〇 Tel. 〇〇〇-〇〇〇〇	定期受診(週1回) 障がいの状況について コミュニケーション力の向上	発達検査や障がいの状態について、指導・助言を行う。 よりよいコミュニケーションの取り方について練習する。
	市特別支援室 担当: 〇〇 〇〇 Tel. 〇〇〇-〇〇〇〇	月1回 生活スキル、対人関係スキルの向上	社会生活や対人関係スキルの向上を目指した個別指導を実施する。

本人・保護者の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を使った学習が楽しかった。</li> <li>・腹を立てることはあっても、すねて固まることが少なくなってきた。</li> <li>・一人でできる家事が、増えてきた。</li> </ul>
-----------	--

次年度への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、計画的にタブレット端末を使った学習を取り入れる。</li> <li>気持ちをコントロールする方法を定着させる。</li> <li>相手に配慮した言い方で自分の気持ちを伝えることができるようにする。</li> </ul>
------------	--

【作成】    △△市立△△中学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

	ふりがな	〇〇 〇〇
	氏名	〇〇 〇〇
学校名	△△市立△△中学校	学年・組
		担任者

将来に向けた長期支援目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切なコミュニケーションの取り方を身に付けることができるようにする。</li> <li>読み書き等基礎的な学力を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
--------------	---

長期目標(1年間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情が爆発しそうな時、気持ちをコントロールする方法を考え、実践する。</li> <li>読み書き等基礎的な学力を身に付けることができる。</li> </ul>
-----------	--

## 【1学期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
日常生活の指導	登校後、学習道具や体操服を所定の位置に置くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真等を使った手順表を示したり、片づける場所に印を付ける等の支援をする。</li> <li>チェックリストを使って、自分で振り返ることができるようにする。☆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順表やチェックリストにより、自分で確認しながら、忘れず片付けることができた。2学期は、教科書の向きや道具の置き方に注意しながら片付けられるようにする。</li> </ul>	●
生活単元学習	実習に使う道具や器具を自分で準備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理や製作等の実習計画を立てる時、実習の手順表の横に準備物の欄を設け、必要な食材や道具、器具等を書き込むようにする。</li> <li>食材や道具等の絵カードを用意し、準備物を視覚的に確かめられるようにする。☆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画を立てる時に、言葉と絵カードの2段階で、実習に必要なものを確認することができたため、必要なものを確実に準備して、実習を行うことができた。</li> </ul>	◎
⋮				
国語	発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌や口等の運動を行う。</li> <li>正しく発音できている音から、少しずつ段階的に練習していくようにする。☆</li> <li>定期的に音読の様子を録音して聞かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌や口の運動を、意欲的に行うことができた。</li> <li>正しく発音できていた音の明瞭さが増して、聞き取りやすい発音で話せるようになってきた。</li> </ul>	○
社会	身近な地域や自分たちの市の様子が分かる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な強みを生かして、立体パズルやかるた、デジタルコンテンツ等を使用して、自分の市の位置関係を理解させる。</li> <li>意欲的に取り組むために、パズル完成までの時間を計測し記録する。☆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標時間を設定し、タブレット端末を使って時間を計ることで、少しでも早くパズルを完成させようと意欲的に取り組み、自分の住んでいる市が県のどの位置にあるか理解することができた。</li> </ul>	○
特別活動(交流)	グループでの話し合い活動に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を言いやすいように、二者択一の議題を設定し、意思表示が明確にできるようにする。</li> <li>自学級で、事前に議題の内容に対する自分の考えをまとめておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二者択一の議題や自分の考えを準備して話し合いに臨んだことで、自分の考えや意見を発表することができた。発表しようとする意欲が向上し、挙手の回数が増えた。</li> </ul>	○
⋮				
自立活動	状況に応じて友達や先生とコミュニケーションを取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵カードの場面について話し合い、どのような状況か確認し、絵カードの中から友達や先生に伝えたいカードを選ばせるようにする。☆</li> <li>伝え方の練習をする際にタブレットを使って動画を撮り、画像で自分の伝え方を振り返られるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した絵カードを基に、自分の思いや考えを表現することができた。また、動画を使って自分の伝え方を振り返ったことにより、表情や身振りにも気を遣って伝え方を考えることができるようになってきた。</li> </ul>	○

〈作成日〉

〈評価日〉

〈記入者〉

## 事例⑥ 高等学校

## 1年 生徒 F 広汎性発達障害

中学生3年生の時、広汎性発達障害の診断を受ける。地理や歴史が好きで、歴史物のアニメやゲームに対する関心が高い。休み時間は、一人で読書をしたりアニメのキャラクターを描いたりして過ごすことが多かった。話すことが決まっていれば、人前でも落ち着いて話すことができるが、その場の雰囲気に応じた応対やコミュニケーションは苦手である。友達との関係に悩み、登校を渋ることがあった。

高校入学前に、保護者の同意を得て、個別の教育支援計画を基に、中学校と引継ぎを行った。また、保護者や生徒にもアンケートを実施して、困っていることや高校で希望する支援などについての情報を得た。入学後に、学校、保護者、本人で話し合い、必要な支援を協議し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成した。本人も保護者も、高校卒業後は就職を希望している。

### 実態把握

保護者の同意を得て、個別の教育支援計画を基に、中学校との引継ぎを行った。また、保護者には「生活支援シート」を、本人には「困りごとアンケート」を実施し、本人や保護者、学校の三者で面談を行った。

学習面では、社会の地理と歴史、数学（特に計算）が得意であること、漢字はよく書けるが文章をまとめること苦手であること、体を動かすこと（特に球技、ダンス）が苦手であること等を把握した。対人関係では、コミュニケーションが苦手なクラスになじめず、情緒が不安定になり学校を休みがちであったこと、そのことがきっかけで医療機関を受診をしたこと、本人も自分の障がいについて理解していること、高校を卒業できるか不安を感じていること、高校卒業後は地元で就職したいこと等について聞き取った。

### 個別の教育支援計画の作成

保護者、特別支援学校コーディネーター、教頭、学年主任、ホームルーム担任、高校コーディネーターでケース会議を実施し、必要な支援を検討した。実態把握より、主にコミュニケーション、対人関係についての支援が必要との共通認識をもち、高校卒業後の就労を見据えて、社会人として必要なコミュニケーションスキルを高めるための支援内容や方法を決定し、体制を整えた。

### 個別の指導計画の作成

特別支援教育コーディネーターやホームルーム担任が協力して、本人と定期的に面談を行い、困りごとについての相談に応じたり、ソーシャルスキルトレーニング（SST）等の支援を行うこととした。グループ活動や学校行事等で、友達との関わり方や自分の気持ちの伝え方など、学んだことが実践されるよう、ホームルーム担任や教科担任で情報を共有しながら連携して支援することとした。

### 評価

グループ活動では、何か困ったことが起きた時に、友達にしてほしいことを言えるようになり、友達と会話を交わす回数が増えた。ソーシャルスキルトレーニング（SST）等により、自分と相手と同じような考えや感じ方をしているわけではないことに気付くことができたが、対応の仕方については、実践の場でのさらなる練習が必要であり、今後も継続的な支援が必要である。

### 引継ぎ

来年度も継続してコミュニケーションスキルの向上を図る。就労に向けて、発達支援センターや特別支援学校の就労支援コーディネーター、ハローワーク等の関係機関と連携しながら、インターンシップを実施し、それらの成果や課題を確認しながら、段階的に支援を行う。

# 個別の教育支援計画 《フェイスシート》

ふりがな	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇

希望・願い	本人	<p>[現在] 友達とトラブルを起こさず、穏やかな学校生活を送りたい。高校卒業のために、各教科の単位を落とさず修得したい。</p> <p>[将来] 卒業後 得意な地理・歴史の知識を生かして、地域の観光に携わる仕事がしたい。</p>	
	保護者	<p>[現在] 穏やかな学校生活を送り、高校を卒業してほしい。</p> <p>[将来] 卒業後 地元企業へ就職してほしい。できれば、一般就労してほしいが、本人の状況により障がい者枠での就労も考えている。</p>	
本人の様子	家庭・地域生活の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野球やサッカーなどのスポーツ観戦が好き。</li> <li>・休日には好きなアニメを見たりゲームをしたりして過ごす。</li> <li>・ゲームに夢中になって、夜更かしをすることがある。</li> </ul>	
	好きなこと 得意なこと (強み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の地理歴史が得意で、知識が豊富である。</li> <li>・数学の計算が得意である。</li> <li>・漢字をよく覚えている。</li> <li>・パソコン操作が得意である。</li> </ul>	
	苦手なこと (困難さ)	[学習]	自分の考えや思いを要点をまとめて文章にすることが苦手である。
		[運動・動作]	不器用で、体を動かすことが苦手である。特に球技とダンスが苦手である。集団のゲームで、ルールや状況に応じた駆け引きの理解が難しい。
		[生活スキル]	生活リズムが崩れやすい。
		[行動]	時間や活動の手順にこだわり、柔軟な対応ができにくい。思いついたことをそのまま口にしてしまい、トラブルになることがある。
[対人関係]	困ったことがあった時に、自分から助けを求めることができず、固まってしまうことがある。		
実態把握 チェック の結果			
希望する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて学校生活が送れるように支援をしてほしい。</li> <li>・就労に必要なコミュニケーションスキル(挨拶や応答など)が身に付くよう支援してほしい。</li> </ul>		

【作成】 愛媛県立口口高等学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

## 個別の教育支援計画 《支援シート》

ふりがな	○○ ○○		
氏名	○○ ○○		
HR		担任	

将来に向けた長期支援目標	<p>・自分の得意、不得意を理解して、困難克服のための工夫をすることができるようにする。</p> <p>・社会人として必要なコミュニケーションスキルを身に付けることができるようにする。</p>
--------------	--

	観 点	配慮の内容	所見等
合理的配慮	教育内容・方法	見通しもって活動できるよう、テストの日程や範囲などの連絡事項を掲示する。	⇒一部見直し 課題の提出期日を守れないことがあった。定期面談を利用して、メモの確認やスケジュールを立てる等の支援を行う。
	支援体制	特別支援教育コーディネーターが中心になって、生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施する。	⇒継続 面談の曜日と時間を設定しておいたことで、面談を確実に行うことができ、特別支援教育コーディネーターとの関係構築が図れた。
	施設・設備	環境の変化に適応できない心理状態になった時のことを想定し、本人と相談して、クールダウンする場所・人を確保する。	⇒継続 困ったことが起こった時に、自分からホームルーム担任や特別支援教育コーディネーターに相談できるようになってきた。
支援者・関係機関との連携	支援者・機関名	支援の役割・方針	支援の内容
	保護者	家庭生活における支援	生活のリズムを整えるよう言葉掛けをする。挨拶や食事、言葉遣い等のマナーを徹底する。
	〇〇クリニック 主治医: 〇〇〇〇 Tel. 〇〇〇-〇〇〇〇	定期受診(年2~3回) 障がいの状況について	発達検査等の検査結果の提供や具体的な支援内容・方法についての助言を行う。

本人・保護者の評価	<p>友達ができて、学校で楽しく過ごすことができた。</p> <p>単位を一つも落とさず修得することができた。</p> <p>時々忘れ物をしたり課題の提出が遅れたりすることがあった。</p>
-----------	---

次年度への引継ぎ事項	<p>規則正しい生活や挨拶等のマナーを徹底する。</p> <p>定期面談を継続して行い、友達とのやりとりの仕方等の指導をする。</p> <p>テストの日程等の大事な連絡事項については、メモを取らせるだけでなく、当日までのスケジュールを立てさせ、見通しをもって取り組めるようにする。</p>
------------	--

【作成】 愛媛県立□□高等学校

〈記入日〉

〈記入者〉

〈記入日〉

〈記入者〉

# 個別の指導計画シート

		ふりがな	〇〇 〇〇	
		氏名	〇〇 〇〇	
学校名	愛媛県立〇〇高等学校	HR		担任

将来に向けた長期支援目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意、不得意を理解して、困難克服のための工夫をすることができるようにする。</li> <li>・社会人として必要なコミュニケーションスキルを身に付けることができるようにする。</li> </ul>
--------------	---

長期目標(1年間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことを忘れず、実行することができる。</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニング(SST)等により、コミュニケーション力を高める。</li> </ul>
-----------	--

## 【1学期】の取組

教科・領域等	短期目標	指導の手立て (有効☆)	経過と評価 (達成◎、継続○、見直し●)	評価
国語	自分の思いや考えを明確にして、文章に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を2～3提示し、その中から1つ選択させる。</li> <li>・選択した例文を参考に、自分の考えや思いに沿って言葉を入れ替え、文章を完成させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を完成させることができるようになり、意欲的に取り組むようになった。完成までの時間が短縮され、文を付け加えるなど工夫をして仕上げるようになった。</li> </ul>	○
理科	実習や実験で、友達と協力して取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内での手順や役割を事前に決める時間を設定する。</li> <li>・実習や実験の進み具合に合わせて、その場で行うことを具体的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言葉掛けを手本にして、周囲の生徒が積極的に本人に関わるようになり、スムーズにグループでの活動ができるようになった。</li> <li>・本人からも、してほしいことを伝えられるようになり、会話が増えた。</li> </ul>	◎
家庭	実習で、道具を適切に使って作業する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を扱う前に、口頭での説明のほかに全員に動画を見せる。</li> <li>・作業手順を写真やイラストを使って示す。</li> <li>・タブレット端末を準備し、作業中に動画を再生できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でタブレット端末を操作して、扱い方や作業の進め方を動画で確認しながら、作業をすることができた。</li> <li>・友達に聞けばすぐに教えてもらえることについても、動画で確認していたので、友達と関わるような働き掛けが必要である。</li> </ul>	●
清掃時	・ホームルーム担任に、最初と最後の報告を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告内容のパターンを決めておく。</li> <li>・清掃時の様子について尋ねたり、清掃態度について褒めたりして、簡単なやり取りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に報告することができた。特に終わりの報告では、清掃時の様子について詳しく伝えることができるようになった。</li> </ul>	○
行事・ 集団行動時	・最後まで落ち着いて活動に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめスケジュールを知らせ、変更がある場合は、変更理由を説明し、変更したスケジュールを示す。</li> <li>・定期面談で、不明な点や不安な点を聞き、どのように周り関わったらよいか、対応の仕方について話し合っておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多少の予定変更については、受け入れ活動することができた。</li> <li>・事前に対応策を考えたことで、行事等への苦手意識が軽減され、参加時間が伸びたり、参加できる事柄が増えたりした。</li> </ul>	○
定期面談	・状況にあった応答の仕方を身に付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな状況が書かれたカードを見て、対応の仕方について考える。</li> <li>・学習や生活面でうまくいっていることについて話す。困っていることについては、解決策や対応策を、教師と一緒に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況把握の際に、自分と相手の考えが必ずしも一致しないことがあることに気づき、相手の話を最後まで聞こうとするようになった。</li> <li>・困っていることに対して話すことで、不安は軽減されているが、考えた対応策を実行に移すことは難しかった。</li> </ul>	●
・				
・				
・				

〈作成日〉

〈評価日〉

〈記入者〉